

令和2年度第2回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和2年6月3日(水) 15:40～17:00

2 場 所 湖南高等学校 図書室

3 参 加 者

委員(敬称略・順不同)

小山伝一郎、佐藤忠男、石田慶仁、満田仁一、鈴木勝美、桑名秀一郎、和田祐樹、
薄良枝、富田弘、酒井祐治

事務局

遠藤潤、熊谷明彦、渡邊大典、鈴木さゆり

オブザーバー

安齋宏之(まゆみ小学校長)、渡部俊博(高校教育課)

4 内 容

① 開会のことば 満田仁一氏

② 会長あいさつ 小山伝一郎氏

③ 校長あいさつ

湖南小中学校との連携が必要である。地域の特性も生かして活性化を図っていきたい。

④ 協議 [ワールドカフェ形式]

(1) 学校からの報告(熊谷)

- ・第1回学校運営協議会の議事録報告
- ・今回の熟議の進め方について

熟議題1: 湖南高校応援隊「ここおた(仮)」

→地域として学校に、また、学校として地域に何ができるかという観点での熟議

熟議題2: 六次産業化「湖南ブランド(仮)」

→何を栽培し、どのように進めていけるのかという観点での熟議

熟議題3: イベント・学校行事の連携「イベントに行ったり来たりしませんか(仮)」

→地域イベント・学校行事ごとに相互にどんな連携が可能かという観点での熟議

(2) 熟議 【別記】

(3) 全体会

・各熟議題の協議内容報告

熟議題 1 :

組織ありきではなく、何が必要なのかが重要である。名称は、「湖南エール隊」ではどうか。学校で困っている時は、湖南の皆さんに広く、各方面のプロなどが組織として関わり、ざっくばらんにお互い活動できればよい。委員の方々にエール隊の名前を付けてHPに湖南の方を募集してみてもどうか。会長などの組織にこだわらず、湖南地域全体のリソースとしてできればよい。

熟議題 2 :

今年度は、今の時期であれば「蕎麦」なら間に合う。商品開発は、生徒の柔軟性に任せてみるとよい。失敗しても構わない。土地の広さは1反歩あれば間に合うと思われる。校地内で栽培可能だろう。場所を決めて、今月中に耕し、肥料を施して種を蒔き、土壌改良を行って収穫していく、など。「かりんとう」なら湖南精肉店などでアドバイスをもらうのはいかがだろうか。道の駅や祭り・イベントなどの短期・期間限定出店、JA直売所、ネット販売、学校での通年販売なども可能性として挙げられる。

熟議題 3 :

地域の活性化が図れないかという観点で熟議をした。7月または9月実施の学校行事体育祭に審判として体育指導員が参加するのはどうか。審判をした方に文化祭の招待券を配布するなど一案である。毎年11月初旬に行っている湖南町文化祭と湖南高校の文化祭を合同にして人の流れを作れないか、という意見も出た。他校に通う湖南出身の高校生が、模擬店などで出店できればよいのではないか。湖南出身の湖南高校生が限られている実情も鑑みて。1, 2年生は、総探の授業で「1からカレーライスを作る」という取り組みをする。調理の補助や材料の補助などご協力頂ける方を見つきたい。布引高原まつりにおいても湖南高校生が5~10名は活躍できる場がありそうだ。窓口は商工会。湖まつりでダンスなどのステージ発表ができないか。今年度は、コロナの影響で未確定ではあるが、市内から通学する湖南高校生が湖南町の運動会を手伝えるようになると良い。盆踊りも湖南高校のグラウンドを借りるのはどうか、といった意見が出た。

・その他

○安齋宏之氏

皆さんがいきいきと話をされていた。ぜひ、面白くなって夢が広がったよ、と皆さんへ情報発信していただきたい。楽しいから私も混ぜて欲しい、というつながりも期待できると思う。最後は、子供たちの成長につながったかということに留意して欲しい。また、失敗を恐れなくて欲しい。安心して失敗できる環境が必

要なので、気持ちに余裕を持って生徒に関わって欲しい。

○酒井校長

本日はありがとうございました。生徒の強みや弱み、要望などを明確にしていきたい。この機会に（気軽に皆様が）湖南高校の校長室に行きたい、となるようにしていきたい。

⑤ 閉会のことば 満田仁一氏

勉強しながら、皆様と協力しながら進めていきたい。

諸連絡（遠藤教頭）

次回・第3回は10月7日（水）です。よろしくお願いいたします。

【熟議題Ⅰ】 「湖南高校応援隊 ここおた（仮）」

湖南高校のコミュニティ・スクール化に伴い、地域と協働した学校づくりとより開かれた学校にすることを目的にする「湖南高校応援隊」について

1 地域と協働した学校づくりのための「湖南高校応援隊」

(1) どんな活動ができるのか

- ・学校が必要なもの・ことを支援する。
- ・学校が応援してもらいたいことは声に出して欲しい。
- ・学校は生徒や学校が困っていることなどを明確化しておくことが必要ではないか。
- ・学校は地域と一緒にどんな活動をしたいのか考える必要がある。
- ・地域の思いも大切にしたい地域や学校行事を応援したい。
- ・除雪ボランティアや湖岸清掃などは地域の方々が一緒に参加することができる。

(2) どんな人が応援隊のメンバーか

- ・各方面のプロが委員となっている湖南高校運営協議会が応援隊の母体・核になる。
- ・応援隊のメンバーは特定せず、応援したい人が学校を応援するのがいい。
- ・応援隊は情報提供のしくみであり、人的ネットワークそのものだ。
- ・まずは、我々委員に何でも相談して欲しい。地域で学校を応援する。
- ・メンバーは湖南エール隊、湖南地域の皆様、湖南に関わる人。
- ・応援隊の組織やしくみにはこだわらなくていい。
- ・名称は「湖南エール隊」が分かりやすく親しみやすい。

(3) 応援に必要なものはあるか

- ・湖南地域の良さである人と人とのつながり。
- ・応援隊は枠にはめすぎることなく、自由な雰囲気のままにしておいた方が良い。
- ・大切なことは、学校も地域も「ざっくばらん」「おたがいさま精神」。
- ・会長などの役職は設けない方が良い。
- ・とりあえずやってみましょう。

(4) その他

- ・応援隊の輪が広がり、県外から本校の文化祭へ来る人が出てきたら素敵なことだ。
- ・より開かれた学校、地域を目指すことが大切だ。
- ・ホームページや湖南高校だよりを通して、応援隊を募集してみるのはいかがでしょうか。
- ・学校と地域の文化祭を一緒にやることもできる。
- ・協力していただいた方々に、文化祭招待券や感謝状をお渡しするのはどうか。

下記の項目については、次回、検討。

2 より開かれた学校にするための「湖南高校応援隊」

- (1) どうしたら人が湖南高校に集うのか
- (2) どんな施設・設備が使えるといいのか
- (3) 利活用するときのポイントは何か
- (4) 感じたこと気付いたこと

【熟議題2】 「湖南ブランド（仮）」

湖南ならではの作物を、生徒が栽培し、オリジナルレシピを考案して加工し、販売まで手がける六次産業化を試みる

1 栽培

(1)何をつくるか、また、商品化のイメージは

- ・ 前回、大豆や餅米等の案も出されたが、今年度に作付けが間に合うのは蕎麦。
- ・ 湖南のイメージから言っても蕎麦が適当。
- ・ 蕎麦の商品化については、「そばかりんとう」「そばガレット」等が考えられる。
- ・ 湖南の他の特産物（ex.赤津のワイン）とのコラボも良いのではないか。
- ・ 蕎麦のレシピは、基本的には生徒の自由な発想に委ねる。

(2)どこでつくるか

- ・ 生徒たちの利便性また成育状況の観察などを考慮すれば、学校の敷地内が適当。
- ・ 1反歩程度あれば十分（収穫は67.5kg程度）→不足分は湖南産のそば粉で補う。

(3)誰の指導を受けることができるか

- ・ 栽培から製粉までの過程は同窓会長が人選。
- ・ オリジナルレシピ作成などの調理指導は商品化が見えてきた段階で人選。
「そばかりんとう」なら湖南精肉店や菊屋など地域の同業者の力を借りる。
いずれは、郡山女子大学（食品流通）や大手菓子店への協力要請も検討。

(4)いつから栽培を始め、いつ収穫し、販売はいつ頃を目指すのか

- ・ 6月中に耕作・土壌改良・施肥
- ・ 7月中に播種～10月に収穫（この間にオリジナルレシピを試行錯誤）
- ・ 今年度の商品化は難しい。まずは、収穫された蕎麦を生徒たちの手で打って食するところから始めることが現実的。

(5)今後、どのように話を進めていったら良いのか

- ・ まずは、土地の選定。
- ・ 来年度以降、販売ルートや広報活動を模索する必要がある。
湖南町商工会と協力し、湖南町文化祭等の各種イベントでの模擬店販売。
駅前商店街のイベントや農協などの直売所での販売。
商品化のアイデアだけを提供し製造販売は業者に委託。
湖南高校での直接販売やネットでの広報活動

下記の項目については、次回、検討。

2 資金

(1)どのくらい費用がかかるのか

(2)費用はどこから負担するのか

(3)売上・利潤はどのくらい見込めるのか

3 加工

(1)誰が指導に当たるのか

(2)どこで加工するか

(3)出荷量はどのくらいを目指すのか

4 販売

(1)どこで販売するか

(2)誰が販売するのか

【熟議題3】 「イベントに 行ったり来たり しませんか (仮)」

地域イベントへの高校生の参加、本校行事への地域の方の参加の可能性と、互いに盛り上がるための工夫について

協議会では、地域と学校が連携しやすい行事から自由にアイデアを出していただいた。

1 湖南高校の学校行事等

行事等 () 内は 従来の実施時期	協議会で話し合われた内容
・ 春の遠足 (5月末~6月上旬)	今年度は6月4日実施。館浜まで歩き、BBQをして歩いて帰ってくる。
・ 冬の遠足 (1月末)	今年度は1月29日に予定。湖南町在住の方にインストラクターをもらい、沼尻スキー場にてスキー教室を実施する。
・ 菱の実祭 (9月末~10月中旬)	<p>菱の実祭に野菜を提供するなど、今までも連携していた。今後は湖南町文化祭と同日開催することで、人の流れを互いに作り出せないか。湖南町文化祭においても、高校生が積極的にステージ発表に参加するなど、盛り上げるために協力してほしい。</p> <p>高校生が部活動などを切り口として、他校生徒とともに文化祭に出店したりするなどしても面白いのではないか。</p> <p>湖南町のお菓子屋さんや、ブドウ農家さん、七エ門さん等と協力して出店や出品するなどして、盛り上げられたらよいのではないか。</p>
・ 秋の遠足 (10月)	各学年で年度によって行先を調整しながら実施している。
・ 体育祭 (7月または9月)	湖南町の各部落に体育指導委員がいる。球技大会の審判など、依頼することも可能ではないか。
・ 地域ミライ探究 「一からカレーライスをつくる」	今年度はカレーライス作りを行う。イネやコムギ、養蜂、ブタ、養鶏など、地域の方々に協力してもらって、湖南町ゆかりのカレーライスをつくりたい。各材料を入手するための相談相手として協議会が協力できるだろう。調理や味見をするなどでも協力できそう。

2 湖南町のイベント等

・水芭蕉まつり (4月～5月)	現在は、湖南町としては実施していない。
・湖南町運動会 (5月上旬)	昨年度から小中学校の運動会と同日開催にした。午前中は小中学校の運動会、午後は地域の運動会。現在は本校生徒を含む湖南町出身の高校生が午後の部の補助員を務めることがあるが、今後、小中学校の運動会の見学や、午後の部の補助員として係わることもできるのではないかな。
・新そばまつり (10月末)	
・布引風の高原まつり (8月末)	ウォーキングや、野菜収穫体験の補助をするボランティアの必要性がある。5人から10人程度で活躍できる場がありそうだ。商工会が主催している。
・湖南町文化祭	現在は部活動のパネル発表や、少年の主張で本校生徒が参加している。今後、菱の実祭と同日開催となれば、もっと活躍の場ができるのではないかな。湖南高校の六次化商品の販売場所としても利用できそうだ。
・福良地区盆踊り大会 (8月中旬)	福良地区の盆踊り大会を本校のグラウンドを借りて実施させてもらえないかな。盆踊りに向けて小中学生は太鼓を練習する。高校生も菱の実祭で太鼓の披露をしたことがあり、講師として太鼓を指導してくれる方が地域にいてつながることができれば、学びの機会を得ることもできるのではないかな。